

外国語活動・外国語科の授業づくりを支援するデジタル資料

「スターターキット」の作成

前橋市立桃井小学校 山川 陽子

前橋市立勝山小学校 多賀谷美貴

「スターターキット」は、学習指導要領改訂に伴う移行期における前橋市の教育課題を受けて作成した、小学校外国語活動・外国語科の授業づくりを支援する教師用デジタル資料である。以下に示す①～③を踏まえて作成した。

- ① アンケート及び学校訪問・授業参観を実施し、本市外国語教育に係る現状と課題を把握する。
- ② ①の分析に基づき作成した教師用デジタル資料（試作版）を協力校へ導入し、試用してもらうことで操作性や内容について改善点を検討する。
- ③ 改善点を基に教師用デジタル資料を完成させる。

I 資料作成の背景

学習指導要領の改訂に伴い、3・4年生の外国語活動及び5・6年生の外国語科が平成32年度より本実施となり、今後、より多くの小学校教員が外国語活動・外国語科の授業に関わることになることが予想される。それは、平成28年度文部科学省英語教育実施状況調査の外国語活動担当教員数のうち、学級担任が占める割合がおよそ89%であることからも明らかである。しかし、平成26年度文部科学省小学校外国語活動実施状況調査からは、「自信をもって外国語活動を指導している」教員は34.6%で、67.3%は英語が苦手であると回答し、60.8%は準備などに負担感があると回答している。

本市では、平成30年度から、3・4年生で35時間の外国語活動、5・6年生で70時間の外国語科の授業を行う。しかし、文部科学省から提示された平成30年度の年間指導計画は、3・4年生の外国語活動15時間分、5・6年生の外国語科50時間分であり、本市が計画している指導時数と20時間分の差が生じている。そのため、移行期に対応した本市独

自の年間指導計画及び単元計画、授業案例が必要である。

また、前橋市の平成29年度「各教科等指導の努力点」外国語活動では、児童の興味関心に応じた効果的な文字指導や、発達段階に応じた題材設定などの「児童の実態に合った指導の工夫」と、児童の知的好奇心を満たす活動やコミュニケーションを図る活動などの「必要感のある場面設定の工夫」を努力点に挙げている。「児童の実態に合った指導の工夫」をするためには、他教科同様、児童の実態をよく理解している学級担任が授業を行うのが適している。「必要感のある場面設定の工夫」とは、「伝えたい」という思いのもてる意味のあるコミュニケーション活動を行うことと捉える。そのためには、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にし、単元の目標を考え、その達成に向けて逆算して1時間の授業を構想していくバックワードデザインが必要である。

英語に対する苦手意識をもつ教員が、上記の努力点等を踏まえて、外国語活動・外国語科の授業を他教科と同じように指導していくべきことを考えたときに、よりどころとなる

簡潔かつ個人の手元で扱うことができる、使いやすい資料が必要だと考えた。

そこで、移行期の教員のニーズに対応した外国語活動・外国語科の指導や授業に関する支援資料を作成することとした。

II デジタル資料作成に向けて

1 作成の計画

本資料は汎用性の高い Web 形式のデジタル資料（以下：デジタル資料）として作成を行った。作成計画を表 1 に示す。

表 1 作成計画

実態把握のためのアンケート項目検討	5月～6月
アンケート実施	6月
実態把握のための学校訪問・授業参観（計19時間）	主に1学期
アンケート分析による内容検討	7月
デジタル資料作成	通年
協力校へのデジタル資料のサンプル配布	9月
置籍校での校内研修（資料参照）	10月
デジタル資料を活用した授業実践	10月～12月
改良のためのアンケート実施	12月～1月
アンケート分析による内容改良	1月～2月
デジタル資料完成・配布	3月

2 本市の現状と課題

本市の現状と課題を把握し、ニーズに応じて内容を精選した資料を作成するために、以下の方法によりアンケート及び分析を行った。

(1) 実態把握のための第1回アンケート

協力校 6 校（置籍校＋大・中・小規模校）で外国語活動・外国語科に係るアンケートを行った。

今までに外国語活動の授業を行ったことがあると回答した教員のうち、61%の教員が、「ALT が授業展開を考えていて、ALT が主導で授業を進行している」と回答している。その背景として考えられる授業を行うまでの不安を具体的に把握するために、「英語力」に関わる内容と「授業づくり」に関わる内容、「ALT」に関わる内容について、協力校全員的回答を求めた。

「英語力」に関しては、授業中に英語での指示や称賛をすることに対しては 60%、状況に応じて児童や ALT と英語でコミュニケーションを図ることに対しては 70% の教員が「やや不安がある・不安がある」と回答している。

「授業づくり」に関する質問と回答は以下にグラフで示す（図 1-A～E）。

Q1 授業の単元計画を考えること

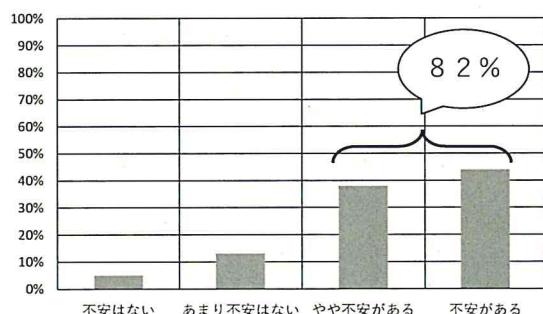


図 1-A

Q2 1 時間の授業展開を考えること

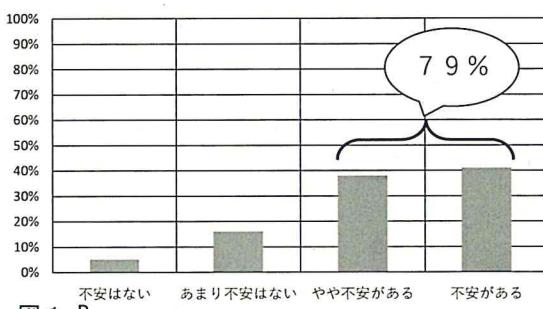


図 1-B

Q3 ねらいを達成するための言語活動を設定すること

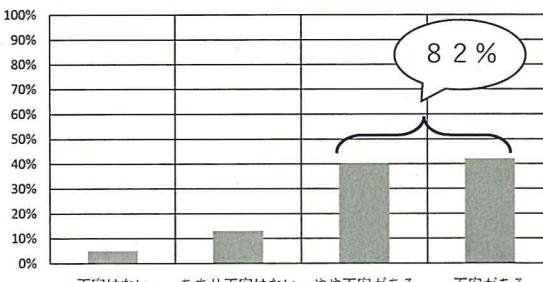


図 1-C

Q4 担任主導で授業を行うこと

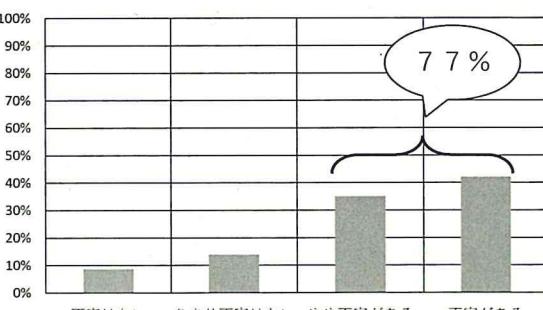


図 1-D

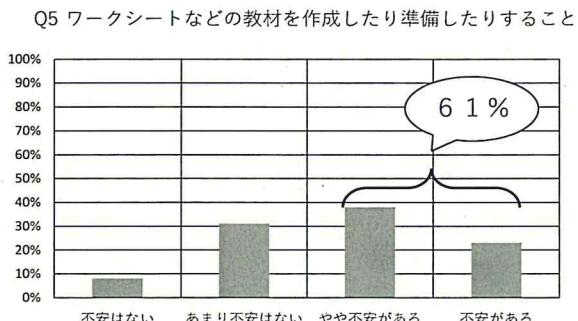


図1-E
—自由記述—

- ・英語力に自信がない。苦手である。
- ・簡単な指示語も分からぬ。
- ・まさか英語を教えるとは思わなかつた。
- ・学級担任主導でやつたことがない。
- ・経験不足。研究不足。慣れていない。
- ・展開を考えたことがない。
- ・学級担任主導で教材研究をし、展開を考える時間、準備の時間の確保が心配。

などが挙げられていた。

アンケートからは、6～7割の教員が英語で授業を進行することや授業中にALTや児童と英語で即興的なやり取りをすることに不安を感じていることが分かる。これは、複数の教員が自由記述で述べているように、「英語力」に自信がないためと考えられる。

学級担任主導で授業を行うことについては、自由記述にもあるように、学級担任主導で授業を行つたことがないために不安を感じている教員が多いと思われる。それは、単元計画や授業展開を考えること、教材作成に関することへの不安にも共通して見られる。

「ALT」に関わる内容については、打合せ時間の確保について、75%の教員が「やや不安がある・不安がある」と回答している。打合せに関する自由記述には、「英語が苦手で通じない」「日本語が分からぬ ALT だとコミュニケーションが図れない」「打合せをしなければいけないという意識をもつ必要がある」などの意見が述べられていた。ALTとの打合せに関しては、勤務時間上の問題があることに加えて、前述の通り、教員が打合せ

に必要な「英語力」に対して自信がないことが、ALTとの打合せに消極的になってしまふ要因でもあると思われる。またALTが授業展開を考えて進めているので、打合せの必要性についての意識が弱いと思われる。

(2) 学校訪問

実際の外国語活動に関する環境や外国語活動の授業の様子を把握するために、協力校を含む10校を訪問し、高学年の外国語活動を中心とする19時間の授業参観を行つた。19時間には、市内研究指定校での中学年の授業参観及び中学校での授業参観も含んでいる。

各学校で使用している教材や掲示物などの環境に関しては、学校間で大きな差が見られた。ピクチャーカードなどは、教員が各ライラストを選び、大きさを調整して独自に作成していることや、学校によっては掲示物などの環境整備を行うことが難しい状況も感じられた。

各学校の授業の様子に関しては、学級担任とALTがデモンストレーションを示すなど協働している様子が伺えたが、授業の進行などをALTが中心となって行つていている場面も少なからず見られた。デジタル教科書があまり使用されていなかった理由としては、授業の前にデジタル教科書の視聴や活用方法の確認を十分に行えていないことや、デジタル教科書はフリーズしてしまうことがあるので、使うことを躊躇してしまうという声があった。

以上、アンケートと学校訪問から、外国語活動に関する状況と具体的な教員の不安が明らかになった。

III デジタル資料の内容

1 デジタル資料作成の基本的な考え方

教員の外国語活動・外国語科の指導や授業づくりに対する不安を抱える教員のニーズに応じて、外国語活動・外国語科の授業づくり

を支援するデジタル資料を「スターターキット」と名付け、作成を行うこととした(図2)。

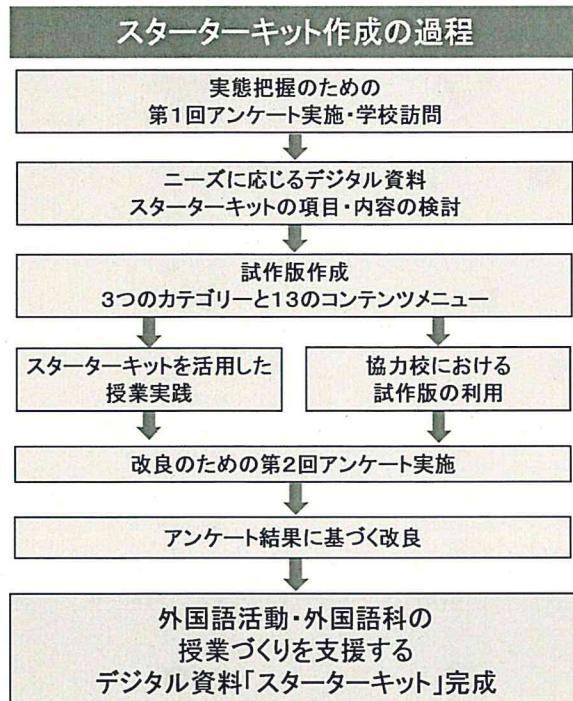


図2 スターターキット作成の過程

アンケートと学校訪問による現状と課題の分析により、以下の5点をスターターキット作成の配慮事項とする。

- ① ニーズや目的に応じて活用できる
- ② 教材研究・作成の時間を軽減できる
- ③ 授業づくりについて理解できる
- ④ 授業の進行やALTと連携ができる
- ⑤ 移行期の前橋市対応の授業ができる

上記①～⑤に対応するために以下を考えに基づいて、スターターキットの作成を行う。

- ① クリックで簡単検索
- ② 印刷・編集可能な資料・教材掲載
- ③ 簡潔な説明・動画・音声解説掲載
- ④ 英語力を補う資料掲載
- ⑤ 前橋市対応の年間指導計画・単元計画・授業案掲載（外国語活動：35時間分、外国語科：70時間分）

2 スターターキット（試作版）の作成と配布・活用・改良（7月～2月）

スターターキットを3つのカテゴリーと13

のコンテンツメニューで構成し、試作版を作成した(図3)。

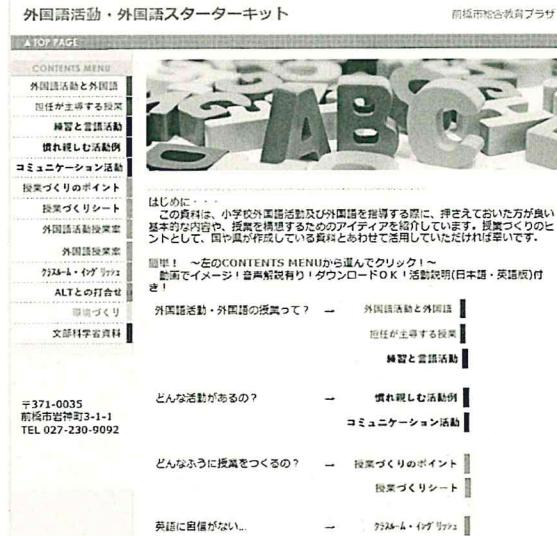


図3 スターターキット試作版トップ画面

研究員自らも、試作版に掲載した資料を活用した授業実践（10月～12月）を行い、スターターキットの改良を行った。また、市内6つの協力校へ試作版を配布し、操作性や内容についてアンケート（第2回アンケート：12月～1月）を行った。その結果、スターターキットの操作性については、「使いやすい・やや使いやすい」に100%の回答を得ることができた。「コンテンツメニューから必要な情報をピンポイントで見付けられる検索のしやすさ」「動画を見て活動のイメージを捉えることができる」「ピクチャーカードなどのデジタル資料をそのまま印刷して使える」などが教員のニーズと一致した結果と捉える。

内容については、「授業動画があると良い」「学級担任とALTの役割分担の様子が知りたい」などの要望が出されたため、研究員が実践した授業動画や、新教材を扱った授業イメージ動画を追加掲載した。また「説明が分かりにくい」と意見があった箇所の表記の修正や、文部科学省から提供された資料の添付、ピクチャーカードの追加、デジタル教科書の活用方法を掲載するなどの改良を併せて行った。

3 スターターキット(完成版・3月)

(1) スターターキットの概要

デジタル資料スターターキットの内容構成を以下に示す（図4）。

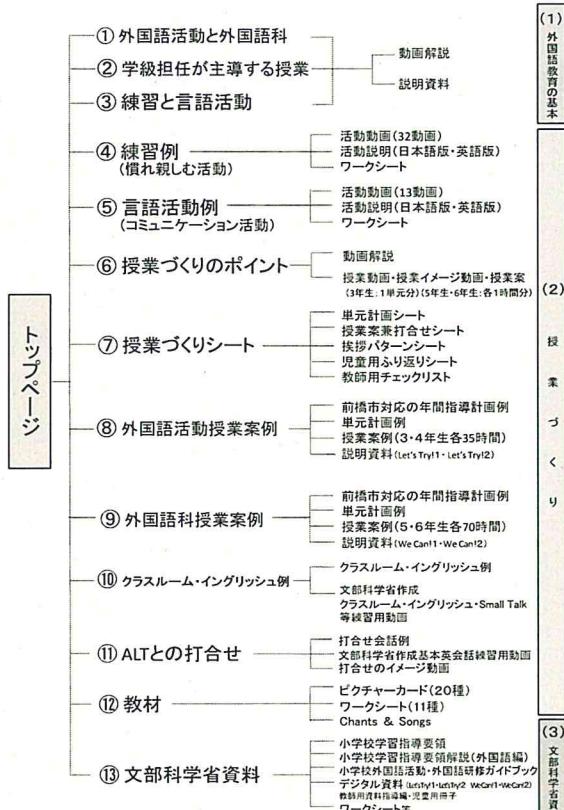


図4 スターターキットの内容構成

「①外国語活動と外国語科」「②学級担任が主導する授業」「③練習と言語活動」では、各項目の基本的な考え方を掲載した。

「④練習例（慣れ親しむ活動）」や「⑤言語活動例（コミュニケーション）」では、活動のイメージ動画や日本語版と英語版の説明、ワークシートを作成し、掲載した。

「⑥授業づくりのポイント」では、外国語活動・外国語科の単元計画や授業展開を考える際のポイントや評価について述べ、授業動画・授業イメージ動画を掲載した。

「⑦授業づくりシート」には、「単元計画」「授業案兼打ち合わせシート」「挨拶パターンシート」「児童用ふり返りシート」「教師用チェックリスト」を掲載した。各シートの具体的な記入方法を例示するとともに、印刷して活用できるファイルとした。

「⑧外国語活動授業案例」「⑨外国語科授業案例」には、前橋市の授業時数に対応して作成した年間指導計画例及び外国語活動の35時間分、外国語科の70時間分の授業案例を掲載した（表2）。

表2 年間指導計画例（一部）

第3学年 外国語活動年間指導計画【例】(前橋市) 使用教材: Let's Try!

- ・本年度指導計画【例】は、これで行なわなくてはならないものではなく参考資料です。各校の実情等に合わせて変更して構いません。
- ・単元構成【例】や評価要項【例】の【】は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、【例】は「外国语への慣れ吸収のみ」、【式】は「言語や文化に関する気持ち」に埋するものである。

日本語でわかるもの						
月 [例]	単元名 [例]	時数 [例]	単元目標 [例]	中心となる 言語活動	吸う表現や語彙 [例]	
4	【单元1】 How many? あとどうして女だんなう?	2	【 (1) 手に伝わるよう工夫しなから、名前を書いて手に交換そりう。】 【 (2) 図版や前の言い方に慣れ親しむ。】 【 (3) 世界には様々な言語があることに気付く。】	世界の街を知る 名前を書いて手に交換そりう。	Hide 15. I'm (Happy). How are you? I'm (happy). Goodbye. Bye.	【 (1) 手相に伝わるよう工夫しなから、名前を書いて手に交換そりう。】 【 (2) 図版や前の言い方に慣れ親しむ。】 【 (3) 世界には様々な言語があることに気付く。】
	【单元2】 How are you? こきいんいかが?	2	【 (1) おもむきエスチーカーを行けて手に伝わるよう工夫しながら、名前を書いて手に交換そりうとする。】 【 (2) 感情や状況を身にたり答えていたり想像して現れ出す。】 【 (3) おもむきエスチーカーの大切さに気付く。】	歌を自由に唱いていたりおもむきエスチーカーを行けて手に交換そりうとする。】	How are you? I'm (Happy). Fine, happy, good, sleepy, hungry, tired, sad, great!	【 (1) 歌をやさしく歌って手に交換するように工夫しながら、歌詞をよどめないように。】 【 (2) 感情や状況を身にたり答えていたり想像して現れ出す。】 【 (3) 歌詞やエスチーカーの大切さに気付く。】
5	【单元3】 How many? 飲んであそぼう	4	【 (1) 手に伝わるよう工夫しなから、放す音に耳を立てたり答えたりしようとする。】 【 (2) 20までの数の言いや数字の順序に耳を立てようとする。】 【 (3) 日本と外洋の飲食文化の違いから、多様な考え方があることに気付く。】	好きな放を唄ふ	How many apples? Ten (apples). Yes That's right. No Sorry.	【 (1) 手相に伝わるよう工夫しなから、放す音に耳を立てたり答えたりしようとする。】 【 (2) 20までの数の言いや数字の順序に耳を立てようとする。】 【 (3) 日本と外洋の飲食文化の違いから、多様な考え方があることに気付く。】
		4		歌 (1-20) 身のまわりの物 (apple, ball, pencil, eraser, crayon, 実物, 芸能部, strawberry, kiwi)		

第6学年 外国語科年間指導計画【例】(前橋市)

*本年間指導計画【例】は、これで行わなくてはならないものではなく参考資料です。各校の実情等に合わせて更変し構いません。
*表中の各項目【例】や各種基準【例】の【C】は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度、【D】は「外因性への慣れ親しみ」、【E】は「言語や文化に対する好き嫌い」に関するものです。

単語帳					
月	単元名 【例】	時間 【例】	単元目標 【例】	中心となる 言語活動 【例】	授業表現や語彙 【例】
4 月 曜日 フラッシュカード を制作する 主な 伝統教材 Hirakka 2 [Lesson 1]	【単元1】 Do you have...? フラッシュカード を制作する	4	【=】進んで、ある物を持っていか うかどうか尋ねたり答えたりし うとする。 【単元】 100 の数字の読み方、大 きな数字の読み方、物語の活字大 小文字と数字の読み方、物語の文 章を読みながら文脈に沿って 会話を進める。 【=】進んで、様々な文章があること に気付く。	自分で好きな アルファベット トピックで 会話を進める。 アルファベット小文字 (a~z) 数字 (thirty one, ..., forty, fifty, sixty, seventy, eighty, ninety, hundred)	Do you have...? ~ Yes, I do. No, I don't. 【=】進んで、ある物を持ってい るかどうか尋ねたり答えたりし うとしている。 【単元】 音の読み方、音を 持っているかどうかを尋ね り答えたりする表現に慣れ、聞 いたりしている。また、活字大 小文字と数字を読んで、文 章を理解する。 【=】進んで、様々な文が有るこ とに気付いている。
	【単元2】 When is your birthday? 友だちの誕生日 を記念する	4	【=】進んで、誕生日を祝ねたり音 楽を歌ったりする。 【単元】 日の言葉、誕生日を祝 ねる表現を覚える。活字大小字 と数字を用いて西暦を書く。 【=】世界と日本との季節に時 をもち、時期や季節の変化に気付 く。	友だちと誕 生日を祝ねる 良い友だちの 良さが書かれて いる。たとえば 「第一」を意味す る。	When is your birthday? My birthday is March eighteenth 【=】進んで、誕生日を祝ねたり音 楽を歌ったりしている。 【単元】 月の言葉、月を祝 ねる表現を覚えて いる。また、活字大 小文字と数字を用 いて西暦を書く。 【=】世界と日本との季節に時 をもち、時期や季節の変化に気 付いている。
	【単元3】 It's night. 夜は寝る時 をしよう。	4	【=】進んで、道を尋ねたり、道案 内を読むしたりしようとする。 【単元】 道案内を読む際に迷 うとしたときに役立つ表現に慣れ えたりする表現に慣れ、理解した りをする。	アマになり、 案内したりする。 【=】進んで、道案内を 読むなり。 Turn right, left, Stop. Excuse me.	Where is the school? Go straight. Turn right. Stop. Excuse me.
	【単元4】 I'm hungry. 腹が減った から食事 をしよう。	4	【=】進んで、腹が減ったから食事 をしようとする。	腹が減ったから 食事をしよう。 【=】進んで、道案内を 読むなり。 The place is here. Excuse me.	【=】進んで、道案内を 読むなり。 Turn right. Stop. Excuse me.

授業を進行する上で必要な「⑩クラスルーム・イングリッシュ例」や「⑪ALTとの打合せ」は、教員の英語力に対する不安を解消することを目的として作成した。

「⑫教材」には、教材作成の負担軽減のために、ダウンロードして印刷できるピクチャーカードやワークシートなどを掲載した。

「⑯文部科学省資料」では文部科学省から許可を得て、「小学校学習指導要領」や「外国語活動・外国語研修ガイドブック」及び新教材「Let's Try!」や「We Can!」のデジタル資料をパッケージ化した。

なお、掲載されている音声解説や動画などについては、視聴しやすいよう、基本的に動画を3分以内に編集した。

(2) 13 のコンテンツについて

スターターキットの各コンテンツについて、以下に示す。

① 外国語活動と外国語科

平成 32 年度から、外国語活動は、35 時間（活動型）の中で、コミュニケーションを図る「素地」となる資質・能力の育成を図る。外国語科は、70 時間（教科型）の中で、コミュニケーションを図る「基礎」となる資質・能力の育成を図る。それぞれの目標や内容等を指導のポイントとして押さえることが大切である。

そこで、「外国語活動・外国語科」では、小学校外国語活動及び外国語科で育成を目指す資質・能力について、具体的かつ簡潔に説明している。動画解説の他に比較表を掲載し、双方の目標や内容等を比較しながら捉えることができる（表 3）。

表 3 外国語活動・外国語科の比較表

外国語活動・外国語科比較表		
名称・時間・型	3・4年生：外国語活動（35時間）=活動型	5・6年生：外国語科（70時間）=教科型
在り方		
コトの 資質・能力	（1）知識・技能 （2）思考・判断・表現力等 （3）学びに向かう力・人間性等	「主体的・対話的で深い学び」を推進する学習過程
学びの過程		
（1）、（2）の資質・能力を一体的に育成し、その過程を通して、（3）の資質・能力を育成する。	（1）、（2）の資質・能力を一体的に育成し、その過程を通して、（3）の資質・能力を育成する。	外語で「何ができるか」（CAN・DO）を設け、それを、「主体的・対話的で深い学び」のなかで、育成していく。
共通の方向性		
目標	コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成	コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成
（1） 知識・技能	・言語や文化について体系的に理解する。 ・音声の違い方に気付く。 ・音声や基本的な表現に慣れ親しむ。	・日本語との違い方に気付く。 （母語・文字・服装・文機器・言葉の働きなど） ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと によるコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技術を身につける。
（2） 賀能力 利用力等	自分の考え方や気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	目的・範囲・状況に応じて 自分の考え方や気持ちなどを伝え合うことができる 基礎的な力を養う。
（3） 学びに向かう力 人間性等	手本的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	他者に配慮しながら、 主体的にコミュニケーションを図ろうとする 態度を養う。
学習指針基準 活動実施指標の評価及び方法	3段階（3つの資質・能力）についての 評定による評価 活動の観察、振り返りシート、ハッヤーマンス評価 (発表・作品などを含む)	3段階（3つの資質・能力）についての 数値による評価 活動の観察、振り返りシート、ハッヤーマンス評価 (インビューチ・スピーチ、簡単な会話をすることなど)
評価時期	毎回の授業ですべてを見取るのではなく、単元や題材の最終的な時期に評価する。	
ポイント	★ 音声や基本的な表現（基本文）に慣れ親しむ。 ★ コミュニケーション活動の素地を養う。 ★ 友達とののれわり大きめにして主体的な言語活動を行う。 ★ アルファベット：大文字 3年生・小文字 4年生 文字の「名前」の読み方を聞いて、どの文字か分かるようになります。 例：「K」という文字の名前の読み方（/keɪ/) を聞いて、3年生は大文字の「K」、4年生は小文字の「k」ということが分かる。	簡単な単語や基本的な表現などの実態を認める。 コミュニケーション活動の素地を養う。 ★ 「聞くこと」「書くこと」を含む会話をを行う。 ★ 個別としての系統的な言語を行う。 文 肯定文・否定文、過去形、動詞句、疑問句 (SWIHI) 代名詞 (it, you, he, she) 文構造 主語・動詞 主語・動詞・名詞・代名詞・形容詞 主語・動詞・名詞・代名詞 ★ アルファベットの文字の「読み方」には、「名作」と「音」があることを認識させ、読む力・書く力を育成する。 （児童がする力）（4歳の上に育む力） 例：“c”は、/s:/という音で /s:/ : circle, city /k/ : cap, music という音をもつ。

上記の資料は、手元において学べるよう、印刷可能な資料として、掲載してある。

② 学級担任が主導する授業

学級担任が主導する授業では、学級担任が、単元目標達成のために、児童の実態に合わせて単元を構想し、各時間のねらいや活動を設定する。1 時間の授業では、児童の様子を見取って、挨拶やめあての提示、活動の開始や終了の指示等により進行する。また、英語を使って ALT とデモンストレーションをしたり、児童を称賛したり、評価をしたりする。

ALT は学級担任のアシスタントとして活動（ゲームなど）のやり方を英語で説明したり、学級担任と英語でデモンストレーションをしたりする。また、英語の正しい発音や自然な表現を児童に示したり、児童と英語でやり取りをしたりするなど、生きた英語を伝える役割を担う。

上記の内容を、動画解説と資料で説明し、学級担任が主導する授業について捉えることができる。

また、「学級担任が主導する授業」における担任の主な役割は、以下のとおりとした。

- ① 単元や 1 時間の授業を構想し計画する。
- ② 1 時間の授業を進行する。
- ③ 英語で称賛する。
- ④ ALT と英語でデモンストレーションをする。
- ⑤ 評価をする。

コンテンツメニューをクリックすると、上記①～⑤の学級担任の役割に関連する内容を閲覧できるようにした（表 4）。

表 4 学級担任の役割とコンテンツメニュー

学級担任の役割に関連する内容は、コンテンツメニューで検索しましょう。	
学級担任の役割	コンテンツメニュー
① 出入りや時間の授業を構想し、計画する。	「外国語活動と外国語科」 「隣組と芸術活動」 「楽隊と（吹き出し）活動」 「言語活動（コミュニケーション活動）」 「出張づくりのハイライト」 「出張づくりセンター」 「外語活動と創造表現」 「外語活動と世界文化」 「外語」 「文部科学省HP」
② 1 時間の授業を進行する。	「クラスルーム・イングリッシュ」
③ 英語で称賛する。	「クラスルーム・イングリッシュ」
④ ALT と英語でデモンストレーションをする。	「AL」ことの打合せ」「「クラスルーム・イングリッシュ」
⑤ 評価をする。	「挑戦づくりのハイライト」

③ 練習と言語活動 一定義と位置付け

スターターキットでは、語句や基本的な表現を繰り返し聞いたり話したりして、慣れ親しむ活動を「練習」と並列表記する。また目的や場面、状況などが設定され、必要感をもって考えや気持ちなどを伝え合うコミュニケーション活動を「言語活動」と並列表記する。

二つの活動について、画面上で対比し、違いを捉えられるようにした。また、外国語活動と外国語科の「言語活動」について、説明資料を掲載している。

「練習」は、主に単元の始めや1時間の授業の前半に位置付けられ、「言語活動」は、主に単元の終末や1時間の授業の後半に位置付けられる。単元や1時間の授業において、「練習」を「言語活動」に向かう活動と位置付け、

「活動の学びのつながり」を意識して指導することが大切であることが捉えられるように、動画解説で説明している（図5）。

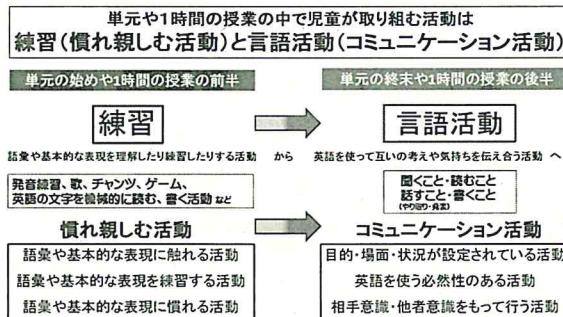


図5 練習と言語活動動画解説画面の一部

また、学習活動例として「練習」(慣れ親しむ活動)例と「言語活動」(コミュニケーション活動)例の一覧表を掲載した(表5)。

表5 学習活動例

活動例	
練習(慣れ親しむ活動)例	言語活動(コミュニケーション活動)例
★文字当てゲーム	★文字作りゲーム
★Sad face	★ナンバーゲーム
★How many じゃんけん	★漢字箇数クイズ
★どばん	★計算ゲーム
★色おに	★お絵かきゲーム
★キーワードゲーム	★ミッシングゲーム
★ジェスチーゲーム	★連想ゲーム
★チーンゲーム	★伝言ゲーム
★記憶力ゲーム	★神経衰弱
★ブロックボックスゲーム	★ポインティングゲーム
★ピングpong	★カルタ
★○×じんごり	★すごろく
★へびじゃんけん	★ペアさがしゲーム
★なんでも!スケット	★Who am I? クイズ
★ラッキーカードゲーム	★サイモンセズ
★クリスクロス	★シェハディ

④ 練習例 (慣れ親しむ活動)

それぞれの活動例ごとに、「活動動画」・「説明(日本語版・英語版)」・「ワークシート」を掲載した。練習例のトップ画面(表6)から項目をそれぞれ選択できる一覧表として作成した。

表6 練習例画面

練習(慣れ親しむ活動)について				
言語材料	活動名	動画	活動説明	ワークシート
アルファベット	文字当てゲーム	Back writing	●動画再生	
アルファベット	文字作りゲーム	Make words	●動画再生	
アルファベット	Sad face	Hangman	●動画再生	
数	ナンバーゲーム	Number game	●動画再生	
数	How many じゃんけん	How many janken	●動画再生	
数	漢字箇数クイズ	Kanji stroke quiz	●動画再生	
数	どばん	Dobon (Don't call 21)	●動画再生	
数	算数ゲーム	Math game	●動画再生	
色・形	色おに	Color tag	●動画再生	
数・色・形	お絵かきゲーム	Drawing picture game	●動画再生	

動画では、学級担任とALTの関わり方や役割、児童の動きなどの活動内容を伝えることを意識した。活動前の練習の場面などは割愛し、3分程度の短い動画にまとめている。実際には活動の前に、児童の実態に合わせて使用する語彙や表現の練習を行う。

説明には、基本的な活動方法の他に、アレンジ方法を追記した活動もあり、他の単元でも扱えることや児童の実態に合わせて工夫できることを具体的に示した。また、英語版を作成することで、ALTとの打ち合わせの際に活用できるようにし、英語で説明することへの不安軽減と打ち合わせ時間の短縮を図った。

また印刷・編集可能なワークシートを掲載し、教材作成に対する負担の軽減を図った。

各活動は本来「練習」と「言語活動」どちらでも活用可能であるが、スターターキットでは便宜上、活動例を分けて掲載している。

⑤ 言語活動例

構成及び構造については、「練習例」と同様である。

スキットでの ALT との役割演技の場面は、新学習指導要領に記されている言語の使用場面に関連させて作成した。また、場面設定の方法として、実物やイラストの使用の他、実物投影機やプロジェクタの利用など ICT の活用方法も例示した（図 6）。



図 6 動画 スキットでの ALT との役割演技

「練習例」と同様に、各活動の「説明（日本語版・英語版）」を掲載している（表 7）。

表 7 活動説明例

スキット（日本語版・英語版）			
ねらい：既習事項を生かしたシナリオを考え、英語劇を楽しむ。			
難易度 ☆☆☆	時間 下線部を変える程度なら シナリオ作成 5分～練習 5分～発表 15分～	準備	場面設定 基本表現
①グループでシナリオを考える。HRTやALTは支援する。 ②役になって、練習する。 ③発表する。（見合う・聞き合う）			
例 1 「友達とランチ」 A : "I'm hungry. How about you?" B : "Me, too. Let's go to <u>Sushi shop</u> ." A : "Well...I don't like <u>fish</u> ." B : "How about <u>hamburgers</u> ?" A : "Good! I like hamburgers! Let's go!" B : "O.K!" ※場面設定や会話パターンを示し、グループで下線部を変えるなど工夫すると、時間短縮にもなり発表を見る他のグループも理解しやすい。 ※「お買い物」「レストラン」「電話」「入国審査」などが扱いやすいと思う。			
例 2 「ハンバーガーショップで」 A : "2 <u>hamburgers</u> , please" B : "For here or to go?" A : "For here." B : "Anything else?" A : "1 orange juice and a coke, please. How much?" B : "\$8. Thank you. Here you are." A : "O.K. Bye!"			

スキット（日本語版・英語版）			
Aim : Make dialogue to enjoy presenting and watching.			
difficult	Time : Make dialogue 5 min.~ Practice 5min.~ Play 15min.~	Setting	Base dialogue
① Students will make the dialogue in a group. HRT and ALT will help them. ② They will decide the part and practice the dialogue. ③ They will present and watch the play.			
ex 1 「Lunch with friends」 A : "I'm hungry. How about you?" B : "Me, too. Let's go to <u>Sushi shop</u> ." A : "Well...I don't like <u>fish</u> ." B : "How about <u>hamburgers</u> ?" A : "Good! I like hamburgers! Let's go!" ※ To show the base dialogue and ask students to change the underlined parts. It will help them to make dialogue easier and understandable with the pattern. ※ 'Shopping', 'restaurant', 'phone conversation' and 'airport' are familiar setting for the students.			
ex 2 「At the hamburger shop」 A : "2 <u>hamburgers</u> , please" B : "For here or to go?" A : "For here." B : "Anything else?" A : "1 orange juice and a coke, please. How much?" B : "\$8. Thank you. Here you are." A : "O.K. Bye!"			

⑥ 授業づくりのポイント

外国語活動・外国語科の授業づくりの際に押さえるポイントを簡潔に示し、外国語活動・外国語科のそれぞれの単元計画の考え方例と1時間の授業展開の考え方例を挙げ、共通部分や相違点を捉えられる。1時間の授業展開を大まかに「導入（Warming up 挨拶を含む練習）」「展開（Activity 言語活動）」「終末（Looking back 振り返り）」の三つに分け、それぞれの部分にどのような活動を組み入れていくのかを例示した（表 8）。

表 8 授業づくりのポイント画面

授業づくりのポイント	
外国語活動	外国語科
単元を見通したバックワードデザインで構想	
・聞くこと→話すこと 十分に耳声で音声や表現に触れる スマートスレップで拐折	・聞くこと→話すこと→休みこと・書くこと 順序性を踏まえてスマートスレップで拐折
・目標に沿った活動の選択と効率的な配列 活動の種類・形態・量のバランスに配慮	・単元を通して振り取り振り詰め活動 Small Talk / Sounds and Letters / Let's Read and Write
・慣れ親しむ機会→活用へ	・思考力を伴う活動で機会→活用へ
・聞く必然性・話す必然性のある活動へ (必ずしもある場面設定を工夫した言語活動)	・自約意識をもって読むこと・書くことへ (必ずしもある場面設定を工夫した言語活動)
児童の成長に生かされる評価	
※「必要ある場面設定の工夫」は、前橋市の努力点です。	

※「必要ある場面設定の工夫」は、前橋市の努力点です。

単元を見通したバックワードデザインとは？

- ① 単元目標を設定 *「必要ある場面設定を工夫した言語活動(ゴール)」を設定★
- ② そのため必要な経験や表現を達成する活動を設定
- ③ 経験や表現により慣れ、活用する活動を設定
- ④ ★設定した活動を通して、①単元目標の達成へ

* ゴールを示すことで、教師も児童も、字ひつながりを感じることができます。

外国語活動・外国語科の1単位時間の授業展開について(例)

	外国語活動例	外国語科例
10～15分	① Warming up (挨拶) 学習の雰囲気作り 前時の復習(歌・チャントなど) めあての確認	① Warming up (挨拶) 学習の雰囲気作り 前時の復習(歌・チャントなど) Small Talk めあての確認
20～25分	② 展開 Activity (Practiceを含む本時の活動) 読みキーワードゲーム・ビンゴなど) 言語活動(インタビューやスキットなど)	② Activity (Practiceを含む本時の活動) 読みキーワードゲーム・ビンゴなど) 言語活動(インタビューやスキットなど)
5～10分	③ 終末 Looking back (振り返り) 振り返りシートの延長や児童の感想の発表、HRTやALTによる評価など	③ Sounds and Letters Let's Read and Write Looking back (振り返り) 振り返りシートの延長や児童の感想の発表、学習のフィードバックや評価など

練習が多くを占める単元の始めから、単元終末での目指す児童（英語で互いの考えや気持ちを伝え合って活用する児童）の姿に向かうためには、単元を通して練習と言語活動のつながりを捉えることが大切である。そこで、動画解説やバックワードデザインを踏まえた単元構想、授業構想を意識した授業実践動画や新教材の活動を扱った授業イメージ動画を掲載した（次頁図 7）。



図7 授業イメージ動画

授業動画や授業イメージ動画には、授業展開の中での活動の位置付けが分かるようにテロップや簡単な説明を入れた。

また、評価についての説明を掲載し、見取り方などについて例示した（表9）。

表9 評価についての説明

評価について		
	外国語活動	外国語科
見取り方	活動の見取り 振り返りシート パフォーマンス評価 (発表・作品などを含む)	活動の見取り 振り返りシート パフォーマンス評価 (発表・作品などを含む)
評価方法	記述式	数値
評価の観点	2018年度は現行	2018年度は現行

※ 単元計画に記載されている評価規準を参考に、各学校の実態に応じて評価を行います。

その他、新教材で新たに扱う活動について簡単に説明し、「読むこと」「書くこと」の視点のポイントを示している（表10）。

表10 新たに扱う活動についての説明

新たに扱う活動	
Let's Watch and Think	映像資料を視聴し、会話の内容を推測しながら聞く活動。
Let's Read and Watch	音声で慣れ親しんだ表現が書かれた文章を読んだ後に、映像資料を視聴して内容を捉える活動。
Let's Read and Write	單元を通して、毎時間少しずつ授業の終末に行う活動。語句や表現を読んだり、例文を書き写したりする活動。
Sounds and Letters	音と文字をつなげる活動。文字を識別し、4種上に文字を書く活動。
Jingle	文字の音に慣れ親しむ活動。
STORY TIME	物語を楽しみ、英語特有の押韻を楽しむ活動。
Small Talk	児童が興味・関心のある身近な話題について、既習表現を繰り返し使用してその定着を図ったり、対話を続けるための基本的な表現の定着を図ったりする目的で、授業の初めに1~2分程度の対話をを行う活動。
※ 詳細は外国語科指導案例 We Can! に掲載しております。	
読むことの視点	
① 音声で十分慣れ親しんだ語句や基本的な表現を読む。	
② 單元を通して、毎時間少しずつ読む。	
③ 自前音読をもって、内容を推測しながら読む。	
④ 身近で簡単な事柄について、主体的に読む。	
書くことの視点	
① 音声で十分慣れ親しんだ語句や基本的な表現を書く。	
② 單元を通して、毎時間少しずつ書く。	

ア スターターキットを活用した単元構想例

第3学年 Hi, friends! 1 Lesson 3

全4時間

単元目標は、「1~20の数の言い方や数の尋ね方 “How many ~ ?” に慣れ親しみ、数えたり尋ねたりする」である。単元目標達成のための中心活動に、「友達にカラフルバスケットをプレゼントする。(第4時)」を設定した。中心活動において、「カラフルバスケットの中に果物が何個あるかを数えたり尋ねたりする児童」を単元の終末で目指す児童の姿とした。

単元の始めに、児童が中心活動をイメージできるよう ALT とデモンストレーションを行い、児童が目的をもって活動に取り組めるようにした。また、1から20までの数について、第1時では1から10までの数、第2時では、1から20までの数というように段階を踏んで練習できるよう活動を設定した。第1時・第2時では、1から20までの数の数え方や数の尋ね方を練習し、十分に聞いたり話したりして慣れ親しみ、第3時・第4時では、児童が数えたり尋ねたりする「言語活動」を設定した。1時間ごとの学びのつながりを大切にして単元を構想した（表11）。

表11 「Hi, friends! 1 Lesson 3」 単元計画

Lesson 3 How many?		
いろいろなものを数えよう		
単元目標	・ 様々に数を数えたり、尋ねたりしようとする。 ・ 1~20の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 ・ 言葉には、それぞれの特色があることを知る。	
基本表現	How many? Five pencils.	
評価規準	身の回りのもの (cat, dog, ball, pencil, apple) 数字 (one, two, three, ..., twenty)	
中心活動	③ 友達にカラフルバスケットをプレゼントする。(第4時)	
評価規準	【コ】進んで数を数えたり、尋ねたりしている。 【問】1~20の数や数を尋ねる表現を聞いたり、言ったりしている。 【文】言葉には、それぞれの特色があることに気付いている。	
時	○ 本時のめあて・学習活動	
1	【目】1~10の数の言い方や数の尋ね方を知ろう。 ・ 100ゲードー 1~10 ・ p.10 [Let's Listen] - How many? ジャンケン	【債】数や数を尋ねる表現を聞いたり、言ったりしている。 (観察・ふり返りシート)
2	○ 1~20の数の言い方や数の尋ね方を知ろう。 ・ 100ゲードー 1~10 ・ p.10 [Let's Listen] - サンバーピンゴゲーム - 漢字漢数字クイズ	【債】言葉には、それぞれの特色があることに気付いている。 (観察・ふり返りシート) 【債】数や数を尋ねる表現を聞いたり、言ったりしている。 (観察・ふり返りシート)
3	○ 数を数えたり尋ねたりしよう。 ・ p.12 [Let's Chant] - クラップゲーム - 「3色のりんごにしよう。」	【債】数を数えたり尋ねたりしている。 (観察・ふり返りシート)
4	○ 友達にカラフルバスケットをプレゼントしよう。 ・ p.12 [Let's Chant] アレンジ - 他の日の友達に、ほしい数を尋ねて、カラフルバスケットを作る。 ③ 友達にカラフルバスケットをプレゼントする。 - カラフルバスケットの中にある果物の数を、尋ね合い、伝え合う。	【債】数を数えたり尋ねたりしている。 (観察・ふり返りシート)

イ 1時間の授業構想例

(ア)第5学年 Hi, friends! 1 Lesson 6

What do you want? 3／5時間目

本時のめあては、「欲しいものをたずねたり答える」表現を扱うので、「○×じんとり」をしながら、ペアで何度も尋ねたり答える「練習」を設定した。1、2回目はすでに完成したシートで活動し、3、4回目は、児童自身がじんとりのマスに必要なアルファベットを“What do you want?”“(I want)～, please.”とやり取りをしながらシートを完成させる課題を課して、児童のモチベーション維持を図った。

本時は初めて「欲しいものをたずねたり答える」表現を扱うので、「○×じんとり」をしながら、ペアで何度も尋ねたり答える「練習」を設定した。1、2回目はすでに完成したシートで活動し、3、4回目は、児童自身がじんとりのマスに必要なアルファベットを“What do you want?”“(I want)～, please.”とやり取りをしながらシートを完成させる課題を課して、児童のモチベーション維持を図った。

「言語活動」は、児童の実態から、協力したり作品を作ったりする活動が適していると考えた。導入でネームカードを扱ったことと単元の終末でアルファベット集めを行うことから活動のつながりを考えて、イニシャルを集める「イニシャルカードづくり」を「言語活動」に設定し、授業を計画した(表12)。

表12 「Hi, friends! 1 Lesson 6」授業案

5年 Lesson 6 What do you want?																											
単元目標 : Unit Goal ・積極的にアルファベットの大文字を読みだり、欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。 ・アルファベットの文字とその読み方と一緒にさせ、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・身の回りにアルファベットの大文字で表現されているものがあることに気付く。																											
中心活動 : Main Activity ◎アルファベット表示を作る。(第5時)																											
3／5時																											
<table border="1"><tr><td>◆挨拶 : Greetings [2]</td><td></td></tr><tr><td>◆ウォームアップ : Warming up (Chant / Song / Others)</td><td></td></tr><tr><td>1 0 min.</td><td>・p.24 [Let's Chant]</td></tr><tr><td></td><td>・ALTとの会話 言いたいことをたずねたり答える表現を扱う。</td></tr><tr><td></td><td>めあて : Today's goal ○欲しいものをたずねたり答えたりしよう。</td></tr><tr><td>2 0 min.</td><td>◆練習 (慣れ親しむ活動) : Practice / Game</td></tr><tr><td></td><td>・p.25 [Let's Chant 2②]</td></tr><tr><td></td><td>・(○×じんとり)</td></tr><tr><td></td><td>◆言語活動 (コミュニケーション活動) : Activity</td></tr><tr><td>1 0 min.</td><td>・イニシャル集め (イニシャルカードづくり)</td></tr><tr><td></td><td>【評価 : 口】</td></tr><tr><td>5 min.</td><td>◆振り返り : Looking back</td></tr><tr><td></td><td>◆挨拶 : Greetings</td></tr></table>		◆挨拶 : Greetings [2]		◆ウォームアップ : Warming up (Chant / Song / Others)		1 0 min.	・p.24 [Let's Chant]		・ALTとの会話 言いたいことをたずねたり答える表現を扱う。		めあて : Today's goal ○欲しいものをたずねたり答えたりしよう。	2 0 min.	◆練習 (慣れ親しむ活動) : Practice / Game		・p.25 [Let's Chant 2②]		・(○×じんとり)		◆言語活動 (コミュニケーション活動) : Activity	1 0 min.	・イニシャル集め (イニシャルカードづくり)		【評価 : 口】	5 min.	◆振り返り : Looking back		◆挨拶 : Greetings
◆挨拶 : Greetings [2]																											
◆ウォームアップ : Warming up (Chant / Song / Others)																											
1 0 min.	・p.24 [Let's Chant]																										
	・ALTとの会話 言いたいことをたずねたり答える表現を扱う。																										
	めあて : Today's goal ○欲しいものをたずねたり答えたりしよう。																										
2 0 min.	◆練習 (慣れ親しむ活動) : Practice / Game																										
	・p.25 [Let's Chant 2②]																										
	・(○×じんとり)																										
	◆言語活動 (コミュニケーション活動) : Activity																										
1 0 min.	・イニシャル集め (イニシャルカードづくり)																										
	【評価 : 口】																										
5 min.	◆振り返り : Looking back																										
	◆挨拶 : Greetings																										

(イ)第6学年 Hi, friends! 2 Lesson 5

Let's go to Italy. 3／4時間目

本時のめあては「行きたい国や理由についてたずねたり答えたりしよう」である。そこで、ALTとの会話に、本時で扱う“Where do you want to go?” “I want to go to ~.” “What do you want to do?” “I want to ~.”を入れて導入を図った。

「言語活動」の際に、児童が自信をもって「行きたい国や理由についてたずねたり答える」表現を活用できるように、「じんけんすごろく」をしながら、ペアで何度も尋ねたり答える「練習」を設定した。初めは、“Where do you want to go?” “I want to go to ~.”を扱い、次に“What do you want to do?” “I want to ~.”を扱い、段階を踏むことを意識した。同じ活動でも、フレーズを変えることで児童のモチベーション維持と会話を広げることを図るとともに、児童に十分な練習時間を確保できると考えた。

次時は中心活動である「友達を旅行にさそう」予定である。友達がどこへ何をしに行きたいのかを事前にリサーチすることは自然なことだと考えて、「言語活動」には「インタビュー活動」を設定し、授業を計画した(表13)。

表13 「Hi, friends! 2 Lesson 5」授業案

6年 Lesson 5 Let's go to Italy																											
単元目標 : Unit goal ・自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。 ・行きたい国について尋ねたり答える表現に慣れ親しむ。 ・世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。																											
中心活動 : Main activity ◎おすすめの国を紹介して、友達を旅行にさそう。(第4時)																											
3／4時																											
<table border="1"><tr><td>◆挨拶 : Greetings [5]</td><td></td></tr><tr><td>◆ウォームアップ : Warming up (Chant / Song / Others)</td><td></td></tr><tr><td>1 0 min.</td><td>・ALTとの会話</td></tr><tr><td></td><td>めあて : Today's goal ○行きたい国と理由についてたずねたり答えたりしよう。</td></tr><tr><td>1 5 min.</td><td>◆練習 (慣れ親しむ活動) : Practice / Game</td></tr><tr><td></td><td>・p.21 [Let's Chant Ver.2]</td></tr><tr><td></td><td>・(じんけんすごろく (すごろく))</td></tr><tr><td></td><td>1回目 Where do you want to go? I want to go to ~. 2回目 What do you want to do there? I want to see eat...~.</td></tr><tr><td>2 0 min.</td><td>◆言語活動 (コミュニケーション活動) : Activity</td></tr><tr><td></td><td>・(p.20 [Let's Play]) インタビュー活動</td></tr><tr><td></td><td>【評価・値】</td></tr><tr><td>5 min.</td><td>◆振り返り : Looking back</td></tr><tr><td></td><td>◆挨拶 : Greetings</td></tr></table>		◆挨拶 : Greetings [5]		◆ウォームアップ : Warming up (Chant / Song / Others)		1 0 min.	・ALTとの会話		めあて : Today's goal ○行きたい国と理由についてたずねたり答えたりしよう。	1 5 min.	◆練習 (慣れ親しむ活動) : Practice / Game		・p.21 [Let's Chant Ver.2]		・(じんけんすごろく (すごろく))		1回目 Where do you want to go? I want to go to ~. 2回目 What do you want to do there? I want to see eat...~.	2 0 min.	◆言語活動 (コミュニケーション活動) : Activity		・(p.20 [Let's Play]) インタビュー活動		【評価・値】	5 min.	◆振り返り : Looking back		◆挨拶 : Greetings
◆挨拶 : Greetings [5]																											
◆ウォームアップ : Warming up (Chant / Song / Others)																											
1 0 min.	・ALTとの会話																										
	めあて : Today's goal ○行きたい国と理由についてたずねたり答えたりしよう。																										
1 5 min.	◆練習 (慣れ親しむ活動) : Practice / Game																										
	・p.21 [Let's Chant Ver.2]																										
	・(じんけんすごろく (すごろく))																										
	1回目 Where do you want to go? I want to go to ~. 2回目 What do you want to do there? I want to see eat...~.																										
2 0 min.	◆言語活動 (コミュニケーション活動) : Activity																										
	・(p.20 [Let's Play]) インタビュー活動																										
	【評価・値】																										
5 min.	◆振り返り : Looking back																										
	◆挨拶 : Greetings																										

⑦ 授業づくりシート

前述「授業づくりのポイント」を踏まえて、自分で授業を考える際に必要な「単元計画シート」「授業案兼打合せシート」「挨拶パターンシート」と、「児童用ふり返りシート」、教師自身が授業実践を振り返るための「教師用チェックリスト」を掲載した。

「単元計画シート」「授業案兼打合せシート」「児童用ふり返りシート」は、使い方や記入の際のポイントなどを示した。画面の図は、クリックすると拡大する。

ア 単元計画シート

単元計画シートは、単元を見通して計画を立てられるように、単元目標と単元目標達成のための活動を中心活動として、シートの上部に配置した（図8）。

図8 単元計画シートの使い方

授業の際には、児童には中心活動を単元目標として示し、中心活動を行うために必要な表現に慣れ親しむ練習や、より慣れ活用する言語活動を学習活動に計画していく。

イ 授業案兼打合せシート

授業案兼打合せシートにもシート上部に単元目標と中心活動を入れ、目指す児童の姿を確認し、目標に向かうための1時間の授業を組み立てることを意識できるようにした。

枠内に選択した活動名を記入していくことで、授業展開の流れを捉えられるようにした。さらに、ALTとの打合せシートとしても活用できるように、英語を併記した（図9）。打合せには、活動説明英語版の併用が有効である。

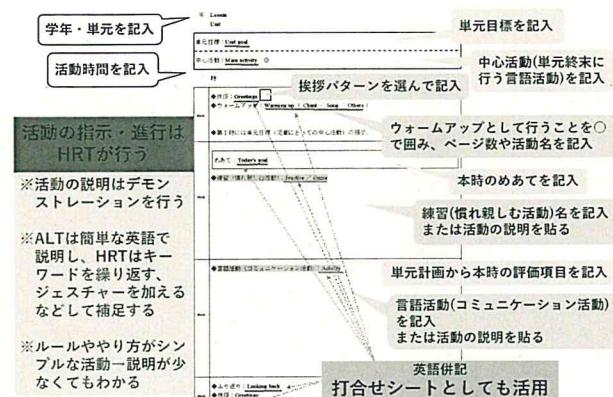


図9 授業案兼打合せシートの使い方

ウ 挨拶パターンシート

挨拶をより自然に行い、学習への雰囲気づくりを高めるために、パターンを5つ作成した（図10）。また、ALTへの説明のための英語を併記した。

挨拶パターン①	
HRT :	Hello, class/everyone.
Students :	Hello, Mr./Ms. HRT and Mr./Ms. ALT.
挨拶 ALT :	Hello, class/everyone. How are you?
Students :	I'm _____, thank you. And you?
ALT :	I'm _____. How about you, Mr./Ms. HRT?
HRT :	I'm _____, thank you.
＊＊＊	
天気	
ALT :	How's the weather, today?
Students :	It's sunny/rainy/cloudy/snowy....
HRT :	Yes, it's _____. And it's hot/cool/cold....

「挨拶パターン2」「挨拶パターン3」「挨拶パターン4」「挨拶パターン5」を挿入してアレンジします。

挨拶パターン② パターン1の＊＊＊に入れてアレンジ
クラスの半分をALTと分担して、1人ずつと挨拶します。その際、返答に反応したり、様子から You look sleepy.などミニ会話も加えてみるとよいでしょう。

H&A: Hello, how are you? Students I'm _____, thank you. And you? H&A: I'm _____, thank you	Divide the class into two groups. HRT and ALT will be in charge of a group. HRT and ALT greets each student. Give reactions if possible.
--	---

図10 挨拶パターンシート一部

エ 児童用ふり返りシート

単元を通して使用することで、単元目標を児童が常に意識できるシートにした（図11）。

図11 児童用ふり返りシートの使い方

単元目標や本時のめあては、学級担任の指導法や児童の実態によって違うことが考えられるので空欄にし、汎用性のあるシートにした。目標やめあてを児童自身に記入させることで、児童にめあてを意識させることができるとともに、増し刷りしての活用ならば、シートを準備する際の負担も少ない。編集可能なシートなので、目標やめあてを教員が記入することもできる。

さらに、児童の振り返りシートを評価に生かせるように、内容を評価の観点と関連させて作成した。シートの項目「①楽しく活動に取り組めた」「②習った英語を使った」は、主に「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」について、「②習った英語を使った」は、主に「外国語への慣れ親しみ」について、「③めあてが達成できた」では、本時のめあてに応じた評価の観点に合わせて、「④気付いたこと（記述）」では、主に「言語や文化に関する気付き」について関連している。

才 教師用チェックリスト

教師用チェックリストは、授業を終えての振り返りに使用する他にも、授業展開を考える際に使用したり、校内研修などでの授業参観時に使用したりすることで、指導のスキルアップにも活用できる（表 14）。

表 14 教師用チェックリスト

＜チェックリスト＞

児童の実態を踏まえたねらい（めあて）になっているか。	
ねらい（めあて）の達成につながる活動を設定しているか。	
活動は順序性を踏まえているか。	
児童の実態に合った活動形態か。	
児童の活動時間の設定は適切か。	
カードやワークシート、デジタル教材などの教材は適切か。	
児童は意欲的に楽しく活動に取り組めたか。	
児童への称賛や励ましなどは適切に行えたか。	
説明や指示にクラスルームイングリッシュを使用していたか。	
フィードバック（振り返り）を行えたか。	

※授業づくりの際または授業後、授業参観などで活用することができます。

⑧ 外国語活動授業案例

前橋市の授業時数に対応した3・4年生の外国語活動年間指導計画例及び単元計画例と35時間分の授業案例を作成した。

画面から単元を選択してクリックすると、単元計画例を閲覧できる（表 15）。

表 15 外国語活動授業案例画面

3年生

※文部科学省の情報を踏まえ、施行期における前橋市独自の年間指導計画を掲載しております。

※この年間指導計画は平成30年度用に作成しております。

第3学年 外国語活動年間指導計画【例】（前橋市）

実施日 (日安)	単元 (前橋オリジナル)	時数	単元名	主な使用教材 教師用資料指導書
4月	単元1	2	Hello! あいさつをして友だちにろう	Let's Try! 1 (Unit 1)
5月	単元2	2	How are you? ごきげんいかが？	Let's Try! 1 (Unit 2)
6月	単元3	4	How many? 教えてあそぼう	Let's Try! 1 (Unit 3)
7月	単元4	4	I like blue. 好きなものを伝えよう	Let's Try! 1 (Unit 4)
8月	単元5	4	What do you like? 何が好き？	Let's Try! 1 (Unit 5)
9月	単元6	4	ALPHABET アルファベットとなかよし	Let's Try! 1 (Unit 6)
10月	単元7	5	This is for you. カードをおくろう	Let's Try! 1 (Unit 7)
11月	単元8	5	What's this? これなあに？	Let's Try! 1 (Unit 8)
12月	単元9	5	Who are you? きみはだれ？	Let's Try! 1 (Unit 9)
1月				
2月				
3月				

単元計画例には、単元目標と評価規準、評価項目、使用する基本表現や語彙、単元を見通しての1時間ごとのめあてなどが一目で分かるようになっている。単元計画例を下にスクロールすると、1時間ごとの授業案例が見られる。

なお、この授業案例は、スターターキット内の授業づくりシートの「授業案兼打合せシート」を使用している。授業案例の練習や言語活動のうち、スターターキット内で紹介しているものについては朱書きした。朱書きの活動名をクリックするとその動画が見られるようにリンクを貼った。「例」であるので、児童の実態に応じて、活動を増減したり変更したりして、活用していただきたい。

また、新教材で新たに扱われる活動についての解説を掲載した。

⑨ 外国語科授業案例

前橋市の授業時数に対応した5・6年生の外国語科年間指導計画例及び単元計画例と70時間分の授業案例を作成した。移行期の対応として、これまで使用していた「Hi, friends!」と新教材「Let's Try!（3・4年新教材）」と「We Can!（5・6年新教材）」の併用になるので、スムーズな活用のために、複数の教材を年間指導計画の指導順に合わせて配列した（表16）。

表16 外国語科授業案例画面

6年生				
※文部科学省の情報に基づき、移行期における前橋市独自の年間指導計画を掲載しております。 ※この年間指導計画は平成30年度用に作成しております。				
第6学年 外国語科年間指導計画【例】（前橋市）				
実施月 (日安)	単元 (前橋オリジナル)	時数	単元名	主な使用教材
4月	単元1	4	Do you have a? アルファベットクイズを作ろう	Hi, friends! 2 (Lesson 1)
5月	単元2	4	When is your birthday? 友達の誕生日を調べよう	Hi, friends! 2 (Lesson 2)
6月	単元3	6	Turn right. 道案内をしよう	Hi, friends! 2 (Lesson 4)
7月	単元4	4	Let's go to Italy. 友達を旅行に誘おう	Hi, friends! 2 (Lesson 5)
8月 9月	単元5	5	What time do you get up? 一日の生活を紹介しよう	Hi, friends! 2 (Lesson 6)
10月	単元6	5	My Summer Vacation 夏休みの思い出	We Can! 2 (Unit 5)
	単元7	4	I can swim. できることを紹介しよう	Hi, friends! 2 (Lesson 3)
	単元8	4	She can run fast. He can jump high. できること	We Can! 2 (Unit 5)

単元計画や各授業案例の構成及び形式は、3・4年と同様の点に留意して作成した。

単元や授業展開の中で、「聞くこと」「話すこと」から始まり、音声に十分慣れ親しんだ後に「読むこと」「書くこと」の言語活動に取り組むような構成となるように留意した。

児童の実態に合わせて、活動内容を吟味し、活動を選択することが望まれる。

また、新教材で新たに扱われる活動についての解説を掲載した（図12）。



- 名ユニットは、「聞くこと」「話すこと」からスタートして各自に十分に慣れ親み、次に、「読むこと」「書くこと」の言語活動に取り組む構造になっている。
- 中学生の外国語活動の学習内容を振り返し活用する。
- 広がりのある認証を設けている。例「行ってみたい国や場所」「パラリン・ピック」
- 「Let's Read and Write! STORY TIME」は、「読むこと」「書くこと」に対応している。
- 代名詞、動名词、過去形などを含む基本表現に振り返し触れるようになっている。
- 子供が詰したり苦たりしたくなるような場面設定がされている。

We Can!の説明資料は [\[PDF\]](#) をクリックしてください。

図12 新教材説明資料画面

⑩ クラスルーム・イングリッシュ例

クラスルーム・イングリッシュとは授業中に学級担任や児童が使う、挨拶や活動の指示、称賛などの英語表現である。授業自体が英語を活用する場であり、学級担任が英語を使って話す姿は、児童の「英語を話すモデル」となる。

そのために、画面上では、「学級担任が、ALTの英語を繰り返すことから始め、児童が理解できるように、短い英語にジェスチャーを加えて、ゆっくり、はっきりと言うようにする。」など具体的な方法で、「英語を話すモデル」になるためのポイントを捉えられるようにした。

また、クラスルーム・イングリッシュを「挨拶をする。」「指示をする。」「ほめる・励ます・尋ねる」の三つの場面に分類し、使用頻度の高いものに精選し、印刷可能な資料として掲載した（表17）。

表17 クラスルーム・イングリッシュ例

挨拶をする。 ~授業の始まりと終わり~

始まり

みんな、おはようございます。	Good morning, everyone.
みんな、こんにちは。	Hello, everyone.
英語の授業を始めましょう。	Let's start English class.
今日のめあてです。	This is today's goal.

挨拶

調子はどうですか？	How are you?
元気です。あなたは？	I'm fine, thank you. And you?
調子がいいです。	I'm good.
おなかがすいています。	I'm hungry.
眠いです。	I'm sleepy.
のどが乾いています。	I'm thirsty.
疲れています。	I'm tired.
風邪をひいています。	I have a cold.
友達と挨拶しましょう。	Let's greet with your friends.

天気・曜日・日付け

今日の天気はですか？	How's the weather today?
晴れです。	It's sunny.
曇ります。	It's cloudy.
雨です。	It's rainy.
雪です。	It's snowy.
寒いですね。	It's cold.
暑いですね。	It's hot.
今日は何曜日ですか？	What day is it today?
月曜日です。	It's Monday.
今日は何日ですか？	What's the date today?
9月7日です。	It's September seventh.

終わり

振り返りをしましょう。	Let's review today's class.
振り返りカードを出してください。	Take out your furikari card.
今日の授業はどうでしたか？	How was today's class?
今日これで終わりです。	That's all for today.
また会いましょう。	See you next time.
みなさん、さよなら。	Good-bye, everyone.

色々な表現を知りたい場合は、「文部科学省資料」から「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック実習編 p118～123」を参考にすることができる。また、文部科学省が作成したクラスルーム・イングリッシュ、Small Talkなどの練習用動画を掲載した。

⑪ ALTとの打合せ

ALTとの打合せに関しては、打合せ時間の確保が一番の課題として捉えられている。打合せ時に「授業案例兼打合せシート」「活動説明英語版」をALTに渡して、「打合せ会話」を用いることで、共通理解と時間短縮が図れる。打合せでは、本時のめあてや活動内容・活動時間と役割などを確認する。打合せ時間に余裕があれば、実際にALTと活動を試したり、一緒に活動例の動画を見たりすることで、活動内容についての共通理解をより深めることができる。

次時に向けた打合せが可能ならば、ALTに授業のねらいを伝えて、活動についてのアイディアを出してもらう、デモンストレーションを行う際の会話を考えてもらうなどすると、自然な英語の表現を使うよい機会となる。

ALTとの打合せイメージ動画とALTとの打合せ会話例を掲載し、打合せ会話には、場面別に使用頻度が高い会話例を示した(表18)。

表18 ALTとの打合せ会話

ALTとの打合せ会話	
<授業計画(展開・指導案)を渡す時>	
これが今日の授業計画です。 ○○のめあては○○です。 ○○を教えてたいと思います。 ○○ゲームをします。 このゲームを知っていますか? ○○ゲームを簡単な英語で(児童に) 説明してください。	This is today's lesson plan. Today's goal is ○○. I'd like to teach ○○. We'll play ○○ game. Do you know this game? Please explain (students) ○○ game in easy English.
何かアイディアがありますか?	Do you have any ideas?
○○についてゲームがありますか?	Do you have any games about ○○?
○○ゲームのやり方を説明してもらいますか?	Could you explain how to play ○○ game?
○○を使ったスキット/デモンストレーションを作ってもらいますか?	Could you make a skit/demonstration using ○○?
英語で○○はなんと言いますか?	How do you say ○○ in English?
<打合せでALTの意見を聞いたり依頼したりする時>	
○○についてどう思いますか?	How do you think about ○○?
今日の授業はどうでしたか?	How did you think about today's lesson?
<お詫びや感謝を伝える時>	
打合せの時間がどれなくずみません。	I'm sorry we don't have enough time to talk about today's lesson.
会日の授業は楽しかったです。	We enjoyed today's lesson. / We had a good time.
助言/手伝いをありがとうございます。	Thank you for your advice/help.
授業を楽しみにしています。	We are looking forward to your class.

「文部科学省資料」の「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック実習編p124~127」で、更に多くの会話例を確認できる。

⑫ 教材

ダウンロードして印刷・編集が可能なピクチャーカードやワークシートなどを掲載した(表19)。

表19 教材画面

● ピクチャーカード類

云々	云々	月(暦)	曜日
投票の結果	あいこち	季節	色
着物	スポーツ	国旗	建物
東洋服	東洋服	動物単数	動物複数
バーゲンショップ	Hi,friends!1. 英文	Hi,friends!2. 英文	イラスト付フルファベット

デジタル教科書にもピクチャーカードがあります。
Hi,friends!では、画面右下の印記マークから選択して印刷することができます。
Let's Try!とWe Can!では、画面左右のどうく(箱マーク)から選択して印刷することができます。

● ワークシート類

お絵かき(オリジン)シート	ピントシート	□×△△とリシート
すごろくシート	インタビューシート	インタビューピンゴ
3ヒントシート	地図	年齢
Sounds and Letters 大文字	Sounds and Letters 小文字	-

ピクチャーカードには、文字指導の観点から英語を記入し、果物や動物は単数形と複数形の両方を作成した(図13)。他にも会話を続けるための表現(I see. Well...)や授業の約束(clear voice, eye contact...)などの文字カードも入れた。ワークシートは活動例のワークシートとリンクしている(図14)。

プリンタの拡大縮小などの機能を選択して、使用目的に合わせて印刷できる。

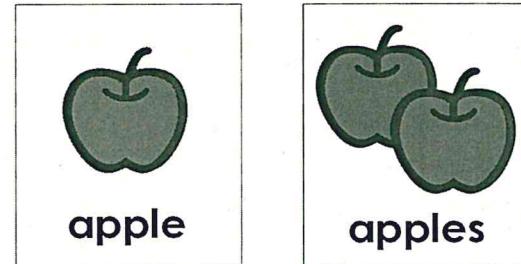


図13 ピクチャーカード例

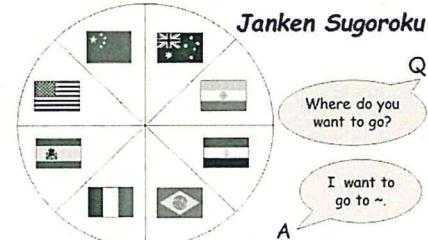


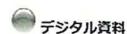
図14 ワークシート例

⑬ 文部科学省資料

文部科学省の「小学校学習指導要領」「外国語活動・外国語研修ガイドブック」にリンクしており、必要な部分だけをすぐに選択できるようにした。いずれもダウンロードして印刷することができる。

また、「Let's Try!」と「We Can!」を単元ごとに閲覧できるようにしたデジタル資料とデジタル教科書を掲載した（表 20）。

表 20 文部科学省資料画面



教師用資料 指導編（PDF）及び ワークシート							
Let's Try! 1		Let's Try! 2		We can! 1		We can! 2	
資料	ワークシート	資料	ワークシート	資料	ワークシート	資料	ワークシート
表紙	-	表紙	-	表紙	-	表紙	-
unit1	○	unit1	○	unit1	○	unit1	○
unit2	-	unit2	○	unit2	○	unit2	○
unit3	○	unit3	○	unit3	○	unit3	○
unit4	○	unit4	○	unit4	○	unit4	○
unit5	○	unit5	○	unit5	○	unit5	○
unit6	○	unit6	-	unit6	○	unit6	○
unit7	○	unit7	○	unit7	○	unit7	○
unit8	-	unit8	-	unit8	○	unit8	○

8 外国語活動・外国語科の指導に関する指導のステップアップイメージとスターターキットの活用例

児童理解に基づく学級担任が主導する授業実践に向かうための指導のステップアップイメージを以下に示す（表 21）。

表 21 ステップアップイメージ

指導のステップアップイメージ	
BASE	外国語教育の基本や授業づくりのポイントを捉えよう。
STEP1	授業案例に基づいて、授業を実践してみよう。
STEP2	児童の実態に合わせて、授業案例をアレンジして、授業を実践してみよう。
STEP3	単元を構想して、授業を実践してみよう。

(1) 【BASE】 外国語教育の基本や授業づくりのポイントを捉えよう

まず、「外国語活動と外国語科」「学級担任が主導する授業」「練習と言語活動」「授業づくりのポイント」「文部科学省資料」などを視

聴し、外国語教育について理解を深めることができ、授業を行う上で必要な内容であることから、BASE（ベース）として位置付けた（図 15）。



図 15 BASE 活用例

(1) 【STEP1】 授業案例に基づいて、授業を実践してみよう

指導する学年の授業案例の活動を理解し、必要な教材や「児童用ふり返りシート」などの準備を行い、学級担任が中心となって授業案例に基づいて授業を進めることを STEP1 として、活用例を示した（図 16）。

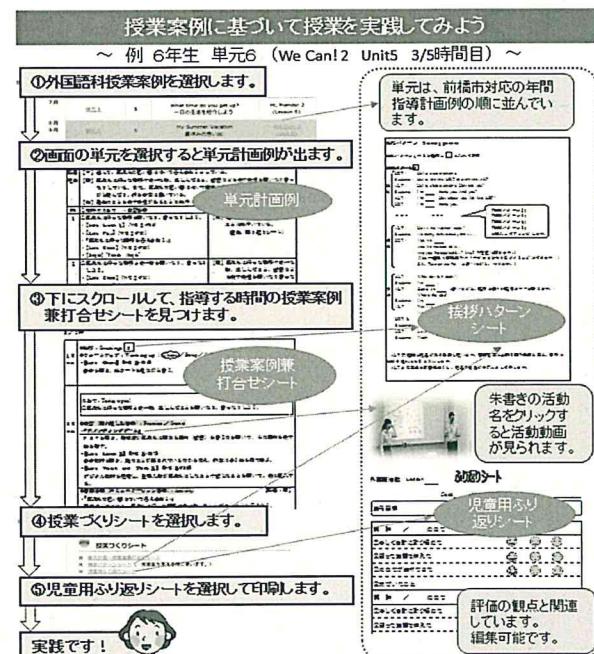


図 16 STEP1 活用例

(2) 【STEP2】 児童の実態に合わせて授業案例をアレンジして授業を実践してみよう

授業案例の学習活動を児童の実態に合わせて他の活動に変えたり、アレンジしたりすることで、学級担任が主導する外国語活動・外

国語科の授業実践に向かうための段階をSTEP2と位置付けた。

児童の実態に合った活動を選択するためには、活動動画の視聴や説明を確認して活動への理解を深め、活動形態などに配慮して行うことが望まれる。そのための活用例を示した(図17)。

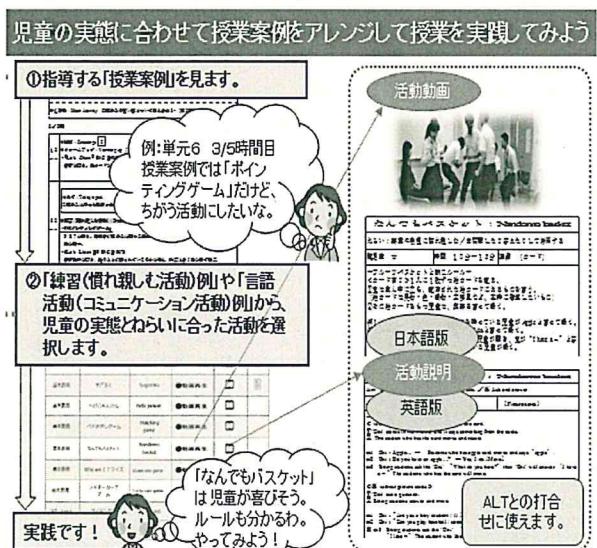


図17 STEP2 活用例

(4)【STEP3】 単元を構想して、授業実践をしてみよう

他教科同様に、児童の実態や興味・関心、他教科との関連性を踏まえて、単元目標である「育成を目指す資質や能力」に向かって、バックワードデザインで単元を構想して学級担任主導で授業実践を行う段階をSTEP3として、活用例を示した(図18)。

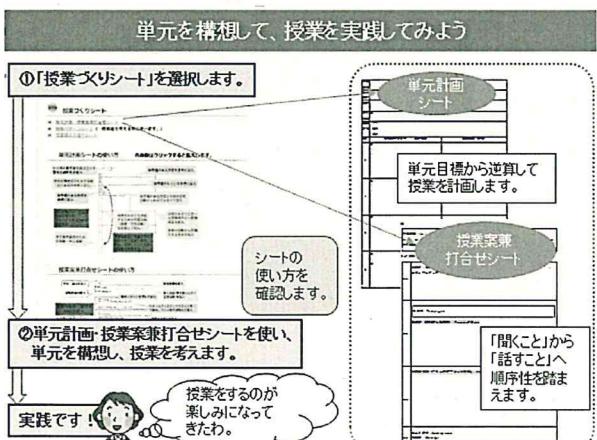


図18 STEP3 活用例

9 作成を終えて

外国語活動・外国語科の授業に対する先生方の不安や負担を少しでも軽減できるように、スターターキットの作成を行ってきた。先生方が必要なときに必要な情報を取捨選択して、使いやすいように活用できる資料であること、そして、いずれは本資料を必要とせずに授業実践を行うことができるようになるための資料であることが、本資料を作成した最大の成果となると考える。

平成31年度に対応した年間指導計画例、単元計画例、授業案例については、来年度の課題として残っている。また、スターターキットが本格的に運用されて初めて本資料の有効性についての検証が可能となり、同時に新たな課題や要望が見えてくることと思う。

本資料が、先生方が外国語活動・外国語科の授業を進める際の手がかりとなり、児童とともに英語でコミュニケーションを図ることを楽しむことができる授業づくりに役立つことができたら幸いである。

<参考文献>

- ・文部科学省:『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社、平成20年8月
- ・文部科学省:『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』平成29年
- ・文部科学省:『小学校学習指導要領解説 外国語科編』平成29年
- ・文部科学省:『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』平成29年
- ・文部科学省:『外国語活動教材 Hi, friends!』
- ・文部科学省:『外国語活動教材 Let's Try! (中学年用) 説明資料』
- ・文部科学省:『外国語科教材 We Can! (高学年用) 説明資料』
- ・群馬県教育委員会:『英語教育強化地域拠点事業 群馬県版 小学校英語教育カリキュラム案 英語表現集 活動集』平成27・28年度版
- ・平成26年度小学校外国語活動実施状況調査
- ・平成28年度文部科学省英語教育実施状況調査
- ・前橋市教育委員会:『前橋市外国語活動指導の努力点』
- ・初等教育資料 平成30年2月号「外国語活動を踏まえた外国語科の実施に向けて」
- 【第1部】全面実施に向けて、今、取り組むこと
- 【第2部】新しい教科 外国語科の在り方

<協力校及び訪問校>

- ・前橋市立桃井小学校・前橋市立勝山小学校
- ・前橋市立細井小学校・前橋市立東小学校
- ・前橋市立宮城小学校・前橋市立白川小学校
- ・前橋市立敷島小学校・前橋市立城東小学校
- ・前橋市立石井小学校・前橋市立城南小学校
- ・前橋市立第一中学校
- ・群馬大学教育学部附属小学校
- ・群馬大学教育学部附属中学校